

C. そ の 他

I 発表論文抄録

1. 高速液体クロマトグラフィー法によるマス・スクリーニングの実績 実績報告③ - 宮城県 -

白石 廣行 清野 陽子 加茂えり子
(神経芽細胞腫マス・スクリーニング 86-93
1989 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会編集・発行)

宮城県では昭和60年10月から神経芽細胞腫マス・スクリーニングを開始し、年間21,000人の検査を行っている。開始時には一次検査にDip法、二次検査にHPLCを使用していた。しかし、電気化学検出器を用いた直接法による測定が可能になったので昭和63年7月から一次検査にもHPLCを導入し、すべての検体の定量検査を行っている。その現状を紹介する。

2. Human Parvovirus (HPV/B19) Infection with Purpura

Hiroyuki Shiraishi, Koji Umetsu.
Hitoshi Yamamoto

Microbiol. Immunol, 33(4), 369-372, 1989

A 33-year-old man complained of purpura (petechial hemorrhage) in chelidons, poples, axillae and bilateral chest in addition to other symptoms such as lumbago, arthralgia, muscular pain, and fever. On the next day of the onset, human parvovirus (HPV/B19) antigen and HPV/B19 DNA were detected in his serum, and twelve days later IgM antibody to HPV/B19 became detectable. This case supports the relationship between purpura and HPV/B19 infection.

Ⅱ 学 会 发 表

学 会 発 表

1. GC-MS, SIMによる残留サルファ剤の一斉分析法
高 槻 圭 悟 菊 池 格
第57回日本食品衛生学会 平成元年5月17~19日 東京都
2. 宮城県におけるツツガムシの生息実態調査
秋 山 和 夫 佐久間 隆* 御代田 恭子 山 本 仁
(* 現宮城県大崎保健所)
第25回宮城県公衆衛生学会学術総会 平成元年5月26日 仙台市
3. 宮城県における先天性副腎過形成症マス・スクリーニング
沖 村 容 子 山 田 久美子 白 石 廣 行 山 本 仁
第25回宮城県公衆衛生学会学術総会 平成元年5月26日 仙台市
4. 宮城県における神経芽細胞腫マス・スクリーニング
加 茂 えり子 清 野 陽 子 白 石 廣 行 山 本 仁
第25回宮城県公衆衛生学会学術総会 平成元年5月26日 仙台市
5. 魚介類のTBTO残留調査
佐 藤 真貴子* 佐 藤 勤 菊 池 格
(* 現宮城県仙南・仙塩広域水道事務所)
第25回宮城県公衆衛生学会学術総会 平成元年5月26日 仙台市
6. ワイル病患者および野ネズミから分離したレプトスピラの血清型の検討
佐久間 隆* 御代田 恭子 秋 山 和 夫 山 本 仁
(* 現宮城県大崎保健所)
第43回日本細菌学会東北支部総会 平成元年8月25~26日 仙台市
7. 感染症サーベイランス情報による疾病解析と発生予測
三 浦 英 美 助 野 典 義
第13回東北防疫研究会 平成元年8月26日 仙台市
8. 宮城県における貝毒について
菊 地 秀 明
第28回日本薬学会東北支部大会 平成元年10月15日 仙台市
9. 底質中の低沸点有機塩素化合物の分析法と吸着量について
高 橋 紀世子 木 戸 一 博 紺 野 光 雄*
(* 現磯エンドーチェーン)
第28回日本薬学会東北支部大会 平成元年10月15日 仙台市
10. PIXE法による沿道大気粉じんの分析事例
氏 家 愛 子 大 金 仁 一* 浦 山 清** 仁 平 明 齋 藤 達 夫
(* 現宮城県石巻保健所 ** 現環境庁水質保全局)
第15回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成元年10月24~25日 札幌市
11. 有機汚染の実態とその解析
木 戸 一 博 古 市 徹*
(* 国立公衆衛生院)
日本地下水学会1989年度秋季講演会 平成元年10月25日 つくば市
12. 単独浄化槽の処理機能に関する考察
清 野 茂
日本水質汚濁研究協会東北支部セミナー 平成元年11月17日 仙台市
13. 県内環境測定分析統一精度管理調査
(全窒素昭和61年~63年度3ヶ年間のまとめ)
清 野 茂
第40回宮城県環境衛生技術職員研修大会 平成2年1月19~20日 仙台市

14. 宮城県における疫学情報解析への新しい取り組み方

三浦 英美 助野 典義

第3回公衆衛生情報研究協議会研究会 平成2年2月3日 東京都

15. 日常食中の汚染物摂取量調査

佐藤 真貴子*

(* 現宮城県仙南・仙塩広域水道事務所)

地研・北海道・東北・新潟支部衛生化学研究部会総会 平成2年2月5～6日

Ⅲ 研究発表会

第8回 研究発表会

日時 平成2年2月15日(木) 9:00~16:30
 場所 宮城県保健環境センター大会議室
 主催 宮城県保健環境センター

〔第1部 研究発表〕 - 9:00~14:00 -

座長 八木 純 (水質部)

1. 環境管理計画の作成に関する基礎的検討
 保健環境センター情報管理部 ○小葉松英行(現宮城県塩釜保健所)
2. 環境影響評価に係る事後調査結果
 保健環境センター情報管理部 ○渡辺はるみ(現水質部) 小葉松英行(現宮城県塩釜保健所)
 紺野 光雄(現㈱エンドーチェーン)
3. 酸性雨自動測定結果について
 保健環境センター大気部 ○百川 和子 小島 秀行 仁平 明 齋藤 達夫
4. 台風通過による大気質の変化について
 保健環境センター大気部 ○小島 秀行 百川 和子 仁平 明 齋藤 達夫

座長 伊藤 孝一 (環境衛生部)

5. 県内環境大気中のアスベスト濃度調査結果
 保健環境センター大気部 ○浦山 清(現環境庁水質保全局)
 大金 仁一(現宮城県石巻保健所)
 佐藤 博明 氏家 愛子 齋藤 達夫
6. 石巻市内沿道大気中のNOx濃度
 保健環境センター大気部 ○氏家 愛子 小島 秀行 大金 仁一(現宮城県石巻保健所)
 佐藤 博明 浦山 清(現環境庁水質保全局)
 齋藤 達夫
7. 七北田ダム貯水地の水質特性
 保健環境センター水質部 ○佐々木久雄 伏谷 均 大庭 和彦
 安斎 文雄(現宮城県大崎保健所)
 藤原 秀一(現宮城県環境管理課) 八木 純
 鈴木 弘一(現宮城県原子力安全対策室)
8. 降雨に伴う畜産汚濁負荷の発生
 保健環境センター水質部 ○安斎 文雄(現宮城県大崎保健所) 伏谷 均
 大庭 和彦 佐々木久雄 八木 純
 鈴木 弘一(現宮城県原子力安全対策室)

座長 佐々木 俊行 (大気部)

9. ダム上流域の土壌特性と流入河川水質の関係について
 保健環境センター水質部 ○大庭 和彦 安斎 文雄(現宮城県大崎保健所)
 佐々木久雄 伏谷 均 八木 純
 鈴木 弘一(現宮城県原子力安全対策室)
10. 加瀬沼水質環境保全対策調査
 宮城県塩釜保健所 ○千葉 孝男 栗野 健(現宮城県気仙沼保健所)
 菅原 優子(現宮城県動物愛護センター)
 宇野 和生 森 泰明(現宮城県仙南保健所)
 山口 国一 白取 剛彦

11. 宮城県の水道水質
保健環境センター環境衛生部 ○平 富貴（現情報管理部） 伊藤 孝一（現宮城県原子力安全対策室）
白鳥 徳男（現宮城県業務課）

12. 水道水源の異臭味について
保健環境センター環境衛生部 ○木戸 一博 小野 研一 高橋紀世子
白鳥 徳男（現宮城県業務課）

座長 高槻 圭悟（理化学部）

13. 空間ガンマ線線量率に及ぼす立体角の要因について
宮城県原子力センター ○佐藤 健一 阿部 勝彦 加茂 泰彦 石川 陽一
加賀谷秀樹 船木 宏（現保健環境センター）

14. 放射性降下物の県内分布調査（Ⅱ）
宮城県原子力センター ○阿部 勝彦 佐藤 健一 加茂 泰彦 石川 陽一
加賀谷秀樹 船木 宏（現保健環境センター）

15. 熱蛍光線量計（TLD）と電離箱検出器のモニタリングデータの考察
宮城県原子力センター ○加茂 泰彦 佐藤 健一 阿部 勝彦 石川 陽一
加賀谷秀樹 船木 宏（現保健環境センター）
佐藤 信俊（宮城県原子力安全対策室）

休憩・昼食

座長 助野 典義（情報管理部）

16. 有機塩素系殺虫剤エンドスルファンの果物中残留
保健環境センター理化学部 ○佐藤 郁子 鈴木 滋 高槻 圭悟 菊池 格
17. 鮮魚に使用されたモナスカス色素の確認
保健環境センター理化学部 ○高槻 圭悟 鈴木 滋 菊池 格
18. 二迫川地方分離調整地域産米Cd濃度の年次推移
保健環境センター理化学部 ○菊池 格

座長 白地 良一（微生物部）

19. 先天性副腎過形成症のマス・スクリーニング
保健環境センター微生物部 ○山田久美子 沖村 容子 白石 廣行 山本 仁
20. 健康住民における日本脳炎中和抗体の動向
保健環境センター微生物部 ○佐久間 隆（現宮城県大崎保健所）
秋山 和夫 御代田恭子 山本 仁
21. 下痢症患者からの病原菌検出
ー感染症サーベイランス事業の検査成績からー
保健環境センター微生物部 ○村上 仁（現宮城県立名取病院）
荒井 富雄 高橋 成人 山本 仁

[第2部 パネルディスカッション] - 14:10~16:30 -

(テーマ)

「保健環境センターの将来構想 - 調査研究に期待するもの -」

<基調講演> 保健環境センター顧問 石田 名香雄

休憩

<パネルディスカッション>

座長	保健環境センター所長	湯田 和郎
パネリスト	県保健環境部長	伊田 八洲雄
	微生物部 主任研究員	白石 廣行
	水質部 研究員	佐々木 久雄

IV 談 話 会

談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピック、現在の試験、研究等の話題を提供していただき討議していただく会である。

原則として、毎月第3木曜日午後1時15分から所内会議室において開催している。

- | | | | |
|-----------------------------------|------------------------|-------|--|
| 第96回 (平成元年9月) | | | |
| 「ガーナの水と生活」 | 保健環境センター大気部 | 権野光永 | |
| 第97回 (平成元年10月) | | | |
| 「西ドイツ、フランスにおける
原子力関係施設の調査について」 | 宮城県原子力安全対策室長 | 早坂国夫 | |
| 第98回 (平成元年11月) | | | |
| 「東北インテリジェントコスモス構想」 | 東北大学名誉教授
保健環境センター顧問 | 石田名香雄 | |
| 第99回 (平成元年12月) | | | |
| 「オーストラリア海外研修の報告」 | 保健環境センター水質部 | 佐々木久雄 | |
| 第100回 (平成2年3月) | | | |
| 「軌跡」 | 保健環境センター副所長 | 高梨忠男 | |

宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。

2. (原稿の執筆規定)

(1) 原稿はB 5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。

学術用語は学会の慣例に従う。

(2) 原稿は表題, 著者名, 抄録, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。

資料も原則として, この順序に従って記載する。

(3) 著者に他機関の人を含む場合は, *印を付して脚注に記載する。

(4) 参考文献は, 最少限にとどめ, 本文中の引用箇所(1), 2)~4)のように肩番号を付して示す。

(記載方法)

雑誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西歴年)

単行本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発行所(西歴年)

(5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に) それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本文のあとにまとめて綴る。

図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。

図はそのまま製版できるようにA 4版の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インキで丁寧に書く。

(6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受け付ける。

3. (原稿の提出) 原稿は毎年7月末日までに, 各部の編集委員に提出する。

執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。

原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

編 集 後 記

永い永い夏であった。大正末期に開設された仙台气象台では、最低気温が气象台創設以来の最高値を記録したという。“地球温暖化”が目睫まで迫ったかと思われるような酷暑であった。

所内では四月早々に、菊地秀明研究員が黄泉の客となる憂愁の思いに閉ざされた。故人は多忙な試験検査、調査研究の傍ら、年報編集委員として、また、野球部のレギュラーとしても多方面にわたり積極的に活躍された。今回も「魚介類中のトリブチルスズオキシドの実態調査」「食品汚染物摂取量調査(IV)」「金アマルガム法による魚介類中及び食品中の水銀の分析」の玉稿をいただいた。泉下より自得の微笑みがあろうことを願ってやみません。

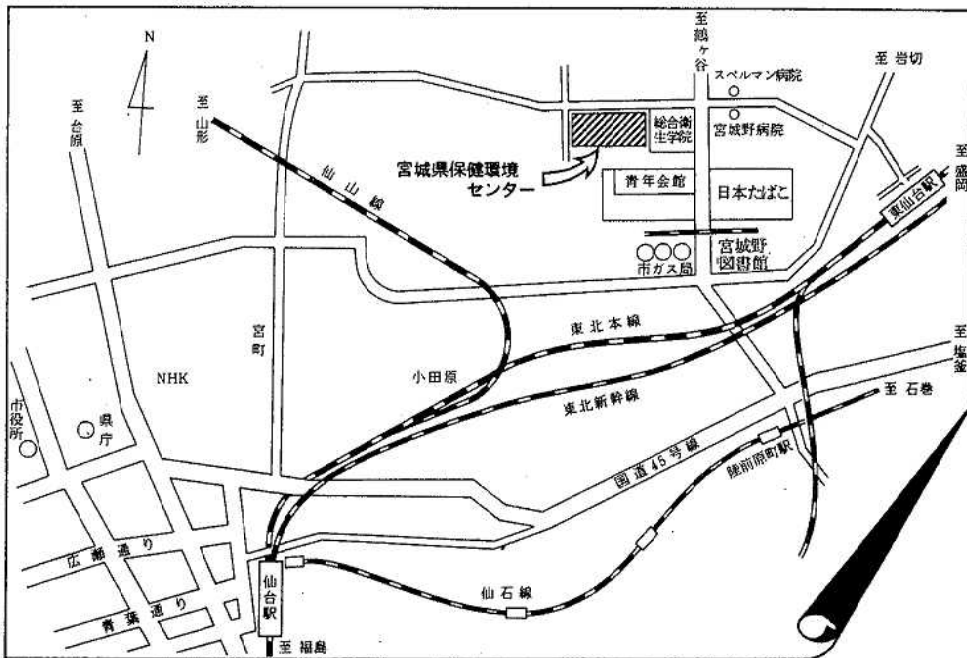
おわりに、発刊に際して御協力いただいた編集委員各位に厚くお礼申し上げます。

(船木記)

編 集 委 員

船 木 宏 (委員長)	荒 井 富 雄
助 野 典 義 (副委員長)	高 槻 圭 悟
二 戸 幸 子	小 林 孜
内 田 隆 夫	庄 司 幸 雄
米 山 達 彦	清 野 茂

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター 第8号
(平成元年度)

印刷 平成2年11月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号
電話 022-257-7181(代)
